

平成29年度 教育方法改善のための自己点検・評価（授業評価等）実施状況調査票

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙1「平成29年度授業評価実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

学部等	大学側（学生側）
大学教育・学生支援機構	大学教育センター学部教務委員会教育推進部会
教育学部 教育学研究科	教育学部教務委員会
社会情報学部 社会情報学研究科	教務委員会，大学院学務委員会
医学部 医学科	医学科教務部会（医学科学友会）
医学部 保健学科	保健学科教育課程専門委員会
医学系研究科	医科学専攻教務委員会
保健学研究科	保健学研究科教務委員会
理工学部 理工学府	理工学府・理工学部評価委員会

(3) 実施方法

学部等	実施方法
大学教育・学生支援機構	実施科目及びアンケート項目について教育推進部会で検討し，大学教育センター学部教務委員会において審議し決定。 教務システムを利用しアンケートを実施。
教育学部 教育学研究科	WEBを利用しアンケートを実施した。 なお、このアンケートによる評価になじまない実験、実技、実習などの講義以外の授業では、別途「授業改善報告書」を教員が作成して教務係へ提出する方式をとった。
社会情報学部 社会情報学研究科	教務システムのアンケート機能を使用したWebアンケート。
医学部 医学科	医学科の学生自治組織である学友会およびその下部に設置されている授業向上委員会が主体となり、1年次から6年次の各学年に対して授業アンケートを実施し、回収・集計結果を医学科教務部会に報告している。
医学部 保健学科	平成26年度から本学で導入されている教務システムを活用して、平成27年度からWebによるオンラインシステムで実施している。
医学系研究科	教務システムのアンケート機能を活用し、医科学専攻の基礎連続講義、医学基礎技術実習の履修者を対象にアンケートを行った。
保健学研究科	授業最終日に、教員が学生にアンケートを配布し、回収後、大学院係へ提出する。
理工学部 理工学府	教務システムのアンケート機能により実施した。 後期から新たに中間調査を実施することとした。また、理工学府専任教員が担当する理工学府・理工学部の全科目を対象として実施することとした。

(4) アンケート結果に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
大学教育・学生支援機構	【結果概要】 授業評価アンケートの実施について、従来教員を通じて学生に通知していたが、昨年度後期は教員の負担軽減のため教務システムのみで通知したところ回答率が低かった。そのため、教員を通じた通知に戻したところ一昨

	<p>年度並みの回収率となった。</p> <p>【課題】 学びのリテラシー（２）において、アクティブ・ラーニングではなかったと回答した学生が約２割いた。</p> <p>【具体的な改善事例】 学びのリテラシー（２）の担当教員に対し、アクティブ・ラーニングに努めるよう依頼したが改善が見られなかったため、アクティブ・ラーニングではなかったと回答した学生がいる授業担当教員に対し個別に依頼することとした。</p>
教育学部 教育学研究科	<p>【結果概要】</p> <p>① 総合評価において、９割以上の学生が肯定的な評価（「優れている」「やや優れている」）をしている。</p> <p>② 授業評価実施科目のうちでアクティブ・ラーニングを実施していると思われる授業科目は全体の６割以上を占めており、当該科目の総合評価においては、「優れている」「やや優れている」といった肯定的な意見が全体の９割以上を占めている。</p> <p>【課題】</p> <p>① 全体から比べると小さな割合だが、評価項目の「授業内容の適切さ」「説明の分かりやすさ」、において、改善すべきとの評価をしている学生がいる。</p> <p>② 学部においては、予習・復習をしなかったと回答した者が約４割いる。</p> <p>【具体的な改善事例】 以下のような改善事例があった。</p> <p>① 授業内容の難易度を確認するとともに、質問等を記入させるリアクションシートを実施した。</p> <p>② 講義の際、実践例を取り入れながら行うことで、理解の浸透を促した。</p> <p>③ グループディスカッションを取り入れ、主体的な取り組みを行わせるとともに、様々な視点を獲得させることを試みた。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】</p> <p>従来、アンケート用紙を印刷し紙ベースで実施していたが、すでに社会情報学部以外の学部ではwebでのアンケートに変更されており、webアンケートに切り替えた。経費の削減をすることができたが、アンケートの回答率は低下した。</p> <p>なお、授業を四段階で評価してくださいとの項目で、前後期ともに８割以上の学生が「優れている」「やや優れている」と回答しており、授業については総じて高い評価であった。</p> <p>【課題】 アンケート回答率の低下。</p> <p>【具体的な改善事例】 掲示、教務システム、授業内でのアナウンス等で学生へ周知し回答を促す。</p> <p>なお、教授会でアンケート結果について教員に周知し、各々の授業改善の参考とした。</p> <p>また、学部内の掲示板にアンケート結果を掲示し、学生へのフィードバックを行った。</p>
医学部 医学科	<p>【結果概要】</p> <p>アンケート集計結果は、医学科教務部会に報告後、例年実施しているFDで公表している。科目単位のフィードバックを行い、今後の授業内容、実施方法の向上に寄与している。</p> <p>【課題】</p> <p>１年次の必修科目が多いが、より広い教養科目を学びたい、外科・救急医学総論の実施時期を、他の臨床科目を学んだ後に配置して欲しい、チームワーク実習を必修化した方がよいとの意見あり。</p>

	<p>【具体的な改善事例】 1年次の必修科目が多いが、より広い教養科目を学びたい → 教養科目の履修基準の見直しを行い、学生がより広い科目を学べるようにした。(平成30年度入学生より) 外科・救急医学総論の実施時期を、他の臨床科目を学んだ後に配置して欲しい → カリキュラム検討委員会にて審議中 チームワーク実習を必修化した方がよいとの意見あり。 → 保健学科と合同開講の科目であり、すぐに必修化するのには困難であるが、平成30年度から選択必修科目と位置付けることとなった。</p>
医学部 保健学科	<p>【結果概要】 平成26年度までは紙媒体で実施し6割程度の回収率であったが、平成27年度は教務システムを活用してのWebによるオンラインシステムでの実施方法に移行したところ、回答率が低下し、平成29年度後期の回収率は31.4%であった。</p>
	<p>【課題】 アンケートの回収率については、更なる向上に向けて今後も検討を進めていく必要がある。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 専門教育の全授業科目を対象にして、授業評価アンケートを実施している。教員への授業評価アンケートの結果については、迅速にフィードバックできるように努め、教員の意識向上を図る必要がある。なお、正確なデータ収集のため、教員からも授業時に学生への周知を行い、事務方からもメールでの周知を数回行い、回収率を向上させていきたい。</p>
医学系研究科	<p>【結果概要】 授業の全体的な評価は、「非常に良い」が約60%、「良い」が約40%となっており、全て肯定的な意見となっている。</p>
	<p>【課題】 グローバル化が進展し、留学生数が増えてきている。それに伴い、英語化に係る対応を進めているが、授業以外の部分を含め全般的に対応が十分ではない状況にあり、改善が必要であるが、国際交流関係の窓口が昭和地区にないことから、あらゆる点で、教職員、学生双方が苦労している。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 □ 回答率は前年度に比べ、約22%上昇した(H28年度回答率56.9%)。授業の全体的な評価については、「非常に良い」及び「良い」の割合が前年度に比べ、約4%上昇した(H28年度95.6%)。 □ 医科学専攻教務委員会において審議し、授業のスライドを極力英語で作成していくこととした。</p>
保健学研究科	<p>【結果概要】 博士前期課程の必修科目である各領域の特別セミナーにおいて実施をした。例年、上記の実施方法により、回収率を維持することができている。授業評価についての回答は、5段階評価中、4、5が多数となっており、おおむね好結果を得た。学生の研究活動に活かせる内容であるとの評価を得ていることが自由記述から読み取れる。</p>
	<p>【課題】 授業への積極度が「やや積極的」を占めているので、「非常に積極的」が多数を占めるようにしていくのが課題である。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 昨年度に引き続き、学生の興味を引く講師の人選を行い、学生の積極的参加を促した結果、「非常に積極的」の割合が14%から24%へ増加した。</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】 前年度まで紙ベースで実施していたアンケートをWebで実施することにより、授業担当教員の負担軽減が計れた。また、後期から実施することとし</p>

	た中間調査により、学生からの意見を授業期間中に反映させることが可能になった。
	【課題】 アンケート結果を全ての学生に公開してほしいとの意見があったが、教務システムの仕様上、授業を履修している学生にしか公開されない。
	【具体的な改善事例】 各学科事務室に紙ベースで授業改善アンケートの結果を配置し、全ての学生が結果を閲覧できるようにする。

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学長と学生との懇談会	H29.11.9	6名	15名	学長が学生から本学の教育内容等に関する意見等を聞くことにより、今後の教育方法の改善等に資するものとする。
教育学部 教育学研究科	学部長との懇談会	H30.1.24	5名	31名	学習環境、授業内容など
	院生との懇談会	H27.11.30	8名	29名	カリキュラム、学習環境など
社会情報学部 社会情報学 研究科	学生と学部長との懇談会	H29.11.1	8名	7名	学部長と学部学生との懇談
	学生と研究科長との懇談会	H30.2.7	9名	2名	研究科長と大学院生との懇談
医学部 医学科	第1回医学科学会と教職員との懇談会	H29.7.24	27名	10名	授業内容・学生生活等に対する要望の聴取、意見交換
	第2回医学科学会と教職員との懇談会	H30.2.13	21名	21名	授業内容・学生生活等に対する要望の聴取、意見交換
医学部 保健学科	第1回保健学科学会と教職員との懇談会	H29.7.13	22名	12名	教育課程・施設等に対する要望の聴取、意見交換
	第2回保健学科学会と教職員との懇談会	H29.12.12	14名	22名	教育課程・施設等に対する要望の聴取、意見交換
医学系研究科	特になし				
保健学研究科	特になし				
理工学部 理工学府	授業改善アンケートに関する学生との懇談会 (化学・生物化学科2年生)	H29.7.28	教員7名	22名	前期アンケート実施科目全ての集計結果及び教員からの回答について、担当学生がPowerPointを用いて説明した後、最後に教員と学生間で意見交換を行った。 アンケートの時期や、回答率を高めるための周知方法などについて意見交換した。
	平成29年度前期授業改善アンケート報告会 (化学・生物化学科3年生)	H29.7.28	教員5名	23名	同上

	2年生と教員との懇談会（機械知能システム理工学科）	H29.8.9	教員 4名	約 70名	2年生からの授業や学生生活に対する要望や意見を聞き、その場で教員側が対応した。
	3年生と教員との懇談会（機械知能システム理工学科）	H29.8.9	教員 2名	1名	3年生からの授業や学生生活に対する要望や意見を聞き、その場で教員側が対応した。
	学生との懇談会（環境創生理工学科・環境エネルギーコース）	H29.10.6	教員 1名	60名	教員と学生との意見交換
	学生との懇談会（環境創生理工学科・社会基盤・防災コース）	H30.2.22	教員 4名	7名	教員と学生との意見交換
	授業評価アンケート結果に基づく学生と教員との懇談会（電子情報理工学科・電気電子コース）	H29.7.31	教員 1名	出席 4名 及びメール回答 3名（後日） 対象：学生評価委員 12名	1. 授業評価アンケートのコメントに対する評価 2. 授業評価アンケートのアンケート項目について 3. 授業評価アンケート後のフィードバックのあり方について 4. その他（講義全般での要望、学生実験での要望、講義室等への要望等）
	授業評価アンケート結果に基づく学生と教員との懇談会（電子情報理工学科・電気電子コース）	メールにより実施 (H30.2.20～2.28)	教員 1名	メール回答 2名 対象：学生評価委員 12名	授業アンケート全般について学生から意見を募った。
	2017年度学生懇談会（電子情報理工学科・情報科学コース）	H30.1.23	教員 1名	9名	教員と学生の意見交換
	理工学府長と学生との懇談会	H29.12.20	12名	20名	事前に取りまとめた意見・要望についての回答、感化学生との意見交換

(2) 懇談会での意見に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p>【結果概要】 学長と学生との懇談会は以前から開催していたが、主に施設・設備等についての意見交換の場となっていたため、今年度からは、テーマを設定し意見</p>

	<p>交換を行うこととした。 今年度のテーマは「群馬大学への進学に当たって」「群馬大学の教養教育」をテーマとして、群馬大学の魅力、入学前と入学後の印象、4年間の目標、教養教育の枠組み、学びのリテラシー、外国語教育について意見交換を行った。</p> <p>【課題】 外国語教育に対して多くの要望が出された。</p> <p>【具体的な改善事例】 多読について、冊子の更新や追加購入等を行った。</p>
教育学部 教育学研究科	<p>【結果概要】 ① 設備、カリキュラム、実習等について要望があった。 ② 平成 29 年度前期の授業評価アンケート集計結果を基に学部学生と意見交換を行った。</p> <p>【課題】 ① 学部においては、設備面、駐車場の改善を求める学生が多い。 ② 大学院においては、教職実践インターンシップの実施や設備面、駐車場の改善を求める学生が多い。</p> <p>【具体的な改善事例】 ① 介護等体験ノートの記載スペースの配分がよくないとの指摘があったため、適正な記載スペースに改善した。 ② 駐車場スペースについて、入構許可証の提示がない車両が多く見受けられた問題に対して、学生支援委員会により駐車場の取り締まりを強化した。 ③ 平成 30 年度の大学院新入生オリエンテーションにおいて、「教職実践研究」及び「教職実践インターンシップ」の実施について説明を行い、学生が抱える疑問を解決するよう努めた。 ④ 「教職実践インターンシップ」について、自分の研究内容や専攻に関連した学校で行いたいと要望があったことから、附属特別支援学校を実習校に追加することで調整している。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】 例年、学生の参加者が少ないため、事前に掲示、教務システムでの周知、担当学生からの声掛けを行ったが、参加人数は増えなかった。</p> <p>【課題】 学生の参加者数を増やす。 学生との意見交換内容は別紙報告書のとおり。</p> <p>【具体的な改善事例】 もっと早い時期から学生へ周知を行う。 学生からの意見・要望への対応は別紙報告書のとおり。</p>
医学部 医学科	<p>【結果概要】 授業カリキュラムについての学生からの要望に対して、カリキュラム構成の趣旨・根拠等を説明して理解を求めた。 学生生活での問題点を聞き取り、可能な範囲で対応することとした。</p> <p>【課題】 採用試験と講義が重複した際の対応や方法について、大学の立場からは講義を欠席していいとは言えないため、大学の講義日程や試験日程を県内の病院に伝えて、採用試験の複数回の実施などを配慮してもらう等の対応が必要である。 学生の図書館やチュートリアル室の利用方法に問題がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 図書館を改修し個別空調を設置することとした。 講義課題提出のためのスキャナーの使用可能場所を案内した。 手術着・スリッパ等が不足した場合の相談先を案内した。</p>

<p>医学部 保健学科</p>	<p>【結果概要】 授業カリキュラムについての学生からの要望に対して、カリキュラム構成の趣旨・根拠等を説明して理解を求めた。 学生からの要望に基づき各講義室の設備等を改善した。 駐輪場が不足しているとの学生からの意見に対して、放置車両を撤去して対応することとした。</p>
	<p>【課題】 老朽化が進んでいる西棟の改修</p>
	<p>【具体的な改善事例】 大講義室、ミレニアムホール等の設備を新しくして、授業に支障がないようにした。 昭和キャンパスでの放置車両を撤去するため、環境保全係と連携して廃棄手続きを進めている。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p>【結果概要】 (各学科教員と学生との懇談会) 各学科の評価委員が中心となり、授業改善アンケートや学生生活についての意見交換を行った。 (理工学府長と学生との懇談会) 前年度と同様に実施し、学生からは好評であった。</p>
	<p>【課題】 (理工学府長と学生との懇談会) 学生からの意見・要望及びそれに対する各係からの回答が例年同じような内容となっており、マンネリ化している面もある。 学生からの意見・要望としては、以下のようなものがあつた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学食の席を増やしてほしい 2. 図書館のプリンタを現金対応にしてほしい 3. 教室を借りる際の手続きが分かりづらい
	<p>【具体的な改善事例】 (理工学府長と学生との懇談会) 事務が回答するような意見だけでなく、「学府長にどうしても聞いてみたい」というような意見を募集するということも検討している。 学生からの意見・要望に対する改善事例は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生協食堂前にテラス席を増設した 2. 平成 30 年 4 月から現金対応のプリンタ機器を導入した 3. 届出用紙に手続き方法を記載し、あわせて理工学部HPにも掲載した

3. FD活動

(1) 実施状況

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	ベストティーチャー賞選考のための公開模擬授業	H29.7.18	67名	最優秀賞候補者3名による公開模擬授業を実施
	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	第9回全学FD連続講演会 「大学教育のグランドデザイン」	H29.11.27	33名	学生主体型授業の導入について外部講師を招いての講演
教育学部 教育学研究科	教育学部	特設の授業公開（前期）	H29.6.1	1名	授業公開の実施
			H29.6.5	5名	授業公開の実施
	教育学部	特設の授業公開（後期）	H29.10.19	4名	授業公開の実施
			H29.11.24	3名	授業公開の実施
	教育学部	ベストティーチャー賞受賞者による授業公開	H29.10.16	1名	授業公開の実施
			H29.10.24	2名	授業公開の実施
	教員養成FDセンター	公開研究会	H29.6.1 外7件	68名	公開保育と全体会保育を語る会
	教員養成FDセンター	教育実習A、C、D及び幼稚園教育実習	H30.1.29 外19件	26名	保育参観
	教員養成FDセンター	附属学校園における大学教員の公開授業	H29.6.26 外12件	31名	大学教員による授業「体細胞分裂の観察実験」外
	教員養成FDセンター	附属学校園と大学教員の連携による附属学校園教員研修会	H29.6.27	30名	特別な支援を必要とする児童に対する具体的な指導や支援の仕方についての研修
教員養成FDセンター	新任教員FD研修会	H29.6.29 外3件	12名	教育学部新任教員へFD研修概要、教育学部特色、教育実習内容等説明	
社会情報学部 社会情報学 研究科	社会情報学教育・研究センター	FD講習会	H30.3.16	16名	履修証明プログラム「社会人のためのデータ解析」に係るFD
	広報室	公開授業	H29.7.29	18名	ベストティーチャー賞受賞者の授業
	広報室	FD・SD	H30.2.21	24名	プロジェクト科目に係るFD・SD
医学部 医学科	カリキュラム検討委員会	カリキュラム検討委員会(①)	H29.8.29 および H29.9.5	55名	医学部医学科のアウトカムとコンピテンシーに基づくロードマップの作

	医学科教務部 会	医学教育教授 法ワークショ ップ (②)	H29.12.9	135 名	成 模擬授業 (授業が 高評価の教員によ る)、特別講演 (学 生評価に関する講 演)
医学部 保健学科	保健学科	第 1 回保健 学教育ワーク ショップ	H29.7.19	68 名	「ポートフォリオ の活用」及び「アク ティブラーニング について」
	保健学科	第 2 回保健 学教育ワーク ショップ	H29.9.5	67 名	「ベストティーチ ャー賞受賞者によ る講演」
	保健学科	第 3 回保健 学教育ワーク ショップ	H30.3.6	77 名	「学生のメンタル 面などに対する教 員側の対応や考慮 すべき点について」
医学系研究科	医科学専攻教 務委員会 生命医科学専 攻教務委員会	群馬大学大学 院医学系研究 科 FD	H30.2.21	65 名	研究の活性化にむ けて
保健学研究科	特になし				
理工学部 理工学府	理工学部	ラーニング・ ポートフォリ オに係る講演 会	H29.6.6	115 名	ラーニング・ポ ートフォリオの状 況、活用方法等
	理工学部	ベストティー チャー賞受賞 者による模擬 授業	H29.12.26	114 名	ベストティーチ ャー賞受賞者によ る模擬授業
	理工学部	公開授業	H29.6.12 ～7.7	不明	教員相互の公開授 業 (アンケート回 答者 13 名)
	理工学部	公開授業	H29.11.13 ～12.8	不明	教員相互の公開授 業 (アンケート回 答者 21 名)

(2) FD活動に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支 援機構	【結果概要】 全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」では、他大学の事例発表を通して今後の大学教育の取り組みについて確認した。
	【課題】 新任教員は採用後3年以内に、ベストティーチャー賞選考のための公開模擬授業に参加することとしているが、参加していない教員がいる。
	【具体的な改善事例】 公開模擬授業に参加できない教員に対し、公開模擬授業の様相を録画したDVDを視聴させる代替措置を取っている。
教育学部 教育学研究科	【結果概要】 教育学部の授業公開については、見学者・授業者が相互に授業改善に資することを目的に、授業評価で好評を得ている授業について広く見学者を募

	<p>って授業公開を行った。</p> <p>教員養成 FD センター主催の研究会等は「学部と附属学校が連携して組織的な研修を実施し、教員養成に関わる教員としての自覚を涵養し、教育・研究指導能力の向上を図る」ことを目的として実施した。</p> <p>附属四校園で行われた研究会や教育実習の授業を参観した教員からは、この活動をとおして、学生にどのような教育をすべきか、また学校現場が抱える課題に対して自身の専門性を活かした研究課題についても考える機会になった等有意義なものであったとする回答を得た。</p>
	<p>【課題】 教育学部の授業公開については教員の参加者が少ないことが課題である。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 教育学部の授業公開については、授業公開日時・内容について掲示するだけでなく、全教員へのメール通知及び教授会での広報を行ったが、参加者増が見込めなかったため、今年度は、あらたな授業公開の形態を検討中である。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】 複数回開催したことにより、より多くの教員が参加し、授業評価結果のフィードバックにより、教育の質向上や授業の改善に結びついた。</p>
	<p>【課題】 全ての教員が参加することはできなかった。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 全ての教員が参加できるよう、開催日（回数）について検討する。</p>
医学部 医学科	<p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの教員にFD参加の機会を提供するため、複数回開催を実現した。 ・医学教育分野別評価でも指摘された学生評価について、識者の講演を聞くことで教育の理解を深める機会とすることができた。(①) ・平成28年に策定された医学部医学科のアウトカムに基づく教育を実現するための道筋について少人数グループによる意見交換を行い、22のコンピテンシーについてロードマップを作成することができた。(□) ・授業で工夫している点を聞いて参考になった、との意見が多かった(②)。
	<p>【課題】 ・模擬授業を実施する教員が限られている。より多くの教員が模擬授業を実施するようになると良い(②)。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 ・より多くの教員が模擬授業の対象となるよう、選考方法を再検討する。</p>
医学部 保健学科	<p>【結果概要】 各教員の教育方法の工夫や改善を促すため、ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施している。</p>
	<p>【課題】 顕著な教育効果をあげているベストティーチャー賞受賞者の公開模擬授業を実施することにより、学生が学習効果を高めていけるような授業の工夫を検討していく。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 FD活動として保健学教育ワークショップを平成29年度は3回実施した。平成30年度も本ワークショップを活用して、保健学科全体が教育効果を高めていこうとする動機づけを図る。</p>
医学系研究科	<p>【結果概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究活動、最近の動向から活性化に向けて 2) 共同研究の実施例について 国際共同研究の活用 学内共同研究の活用

	<p>3) 若手研究者の体験談（成功例・失敗例、大学に望むこと） 上記について最新の情報を紹介し、意見交換を行った。</p>
	<p>【課題】 特になし</p>
	<p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p>【結果概要】 ベストティーチャー賞受賞者による模擬授業では、受賞者に授業において工夫をしている点等の説明及び、実際に講義をしてもらうことにより、出席した教員の授業改善に資する機会となった。 ラーニング・ポートフォリオに係る講演会では外部講師にラーニング・ポートフォリオの活用方法や他大学での状況などを説明してもらい、ポートフォリオとはどんなものか共通認識できる機会となった。 教員相互の公開授業を前期・後期ともに実施した。</p>
	<p>【課題】 特になし</p>
	<p>【具体的な改善事例】 特になし</p>

4. 学生等への意見調査 (在学生、卒業(修了)生、就職先及び保護者など)

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
大学教育・学生支援機構	全学卒業時アンケート	H30年1月～3月	平成29年度卒業生 1,165人	卒業生を対象にした、学生生活、教養教育科目等についてのアンケート調査
	全学修了時アンケート	H30年1月～3月	平成29年度修了者 488人	修了生を対象にした、研究環境や進路選択の支援等についてのアンケート調査
教育学部 教育学研究科	教育実習A及びBに関するアンケート	H29.11	学部3年生 219名	教育実習の充実度等に関するアンケート
社会情報学部 社会情報学研究科	新入生との懇談会	H29.4.6	109名	新入生と教員とで懇談を行った。
	卒業時アンケート	H30.1.27	100名	卒業論文発表会終了時に、学部生としての活動を総括するアンケートを実施した。
	修了時アンケート	H30.2.17	4名	修士論文発表会終了時に、院生としての活動を総括するアンケートを実施した。
医学部 医学科	卒業時アンケート	H30.3.23	6年生 124名	在学中のカリキュラム等への意見調査
医学部 保健学科	特になし			
医学系研究科	特になし			
保健学研究科	特になし			
理工学部 理工学府	理工学部及び理工学府における卒業・修了時アンケート調査	H30.2.17～3.23	学部4年次 519名 修士2年次 305名 博士3年次 9名	授業科目や課程に関する意見や満足度、進学先等

(2) 意見調査に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	【結果概要】 平成29年度に初めて、全学卒業時・修了時アンケートを実施し、回収率は学部が73%、大学院が76.8%であった。
	【課題】 各学部、研究科等で行っているアンケート調査と併せて実施できるとよい。
	【具体的な改善事例】 各学部、1) DPとの関連についての点検、2) 授業評価アンケートも含めた今後の改善策の検討を依頼。 アンケートの質問項目、実施方法等について教育推進部会で検討を行う。
教育学部 教育学研究科	【結果概要】 実習の充実度、実習期間の設定、実習校への割り振りの満足度、実習A(基礎実習)における経験を実習B(応用実習)へ活用できたかについて、8割5分以上の学生が肯定的な評価をしている。

	<p>【課題】 期間設定と実習校の割り振りについて満足度が低い。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 今年度の教育実習校に甘楽地区を追加し、実習希望地域の選択肢を増やした。 実習期間については、各実習校や教育委員会との調整が必要となるため、引き続き、どのような期間設定が可能か、教育実習委員会において検討を続ける。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】 学部卒業時アンケートにおける「群馬大学社会情報学部でのあなたの学生生活は、充実していましたか」との質問に対し、「とても充実」「充実」と回答した者は情報行動学科で合わせて88.5%、情報社会学科で91.8%であった。研究科修了時アンケートでのそれは100%であった。 学部・研究科ともに、学生は学生生活に満足し、高く評価していることが伺われた。</p>
	<p>【課題】 大学院進学情報の提供について「あまり行われていなかった」「ほとんど行われていなかった」「わからない」と答えた回答者が、情報行動学科で62.2%、情報社会学科で44.9%いた。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 大学院説明会の案内等、学生への周知を検討する必要がある。</p>
医学部 医学科	<p>【結果概要】 全学の卒業時調査の実施と合わせ、学部独自の調査項目をカリキュラム評価委員会が設定した。カリキュラムを終えた6年次生を対象にカリキュラムへの満足度等を調査した。 アンケートが完成した時点以降に6年次生が集まる機会にはほぼなく、やむを得ず学位記伝達式後の短時間での実施となってしまった。</p>
	<p>【課題】 a. 受け身で自主性のない学生が多い b. 低学年での実習にやや不満が多い c. 6年次科目「実践臨床病態学」のあり方について検討が必要 d. 回答率を上げるため、実施時期・方法の検討が必要</p>
	<p>【具体的な改善事例】 a. 自主的な学習を促すよう、大学での学びを題材としたグループワークを入学直後の授業に導入した。(H30 実施) b. 低学年で実習に出ることの意義を明確に説明し、目的をもって現場に参加する実習にする c. 国家試験対策も意識し、医学科教務部会で授業の方向性を示すようにする d. 講義や試験後または国家試験説明会時など、時間に余裕をもって実施できる機会を確保する</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】 平成29年度より教務システムを使って実施。 回答数 (学部) 200名 (大学院)117名 授業科目(カリキュラム)について、概ね肯定的な回答であった。</p>
	<p>【課題】 学部英語教育について、十分だと思っていない旨の回答が約45%あり。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 平成30年度入学生より、2年次教養英語科目を開講。</p>

5. 学外者の意見や第三者評価等の結果の活用

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	概要
大学教育・学生支援機構	特になし		
教育学部 教育学研究科	特になし		
社会情報学部 社会情報学研究科	アドバイザーボード	H29.8.29	事業運営に関し、外部有識者から意見を伺い、更なる発展に繋げる。
医学部 医学科	医学教育分野別評価	H29.7.3 ～7.7	本学医学科の教育内容が国際基準に合致しているか、日本医学教育評価機構（JACME）の評価を受審した
医学部 保健学科	特になし		
医学系研究科	地域オープンイノベーション R&D 人材養成事業事業評価委員会	H30.2.15	未来医療研究人材養成拠点形成事業の取組状況について、事業の改善に資するよう、学外者による評価を受けた。
	重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム外部評価委員会	H29.11.3	博士課程教育リーディングプログラム事業の取組状況について、事業の改善に資するよう、学外者による評価を受けた。
保健学研究科	特になし		
理工学部 理工学府	特になし		

(2) 意見等に基づく 改善事例

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
社会情報学部 社会情報学研究科	【意見・指摘事項等】 <ul style="list-style-type: none"> ・学生が作成した学部案内の完成度が高い。SNS などを活用した広報を学生が中心となって進めて行くべき。 ・社会情報学部のコース(GFL, データ解析 PG)等の露出が少ない。 ・社会人学び直し事業は今後も続けて行くと良い。 ・ディプロマポリシーの周知方法について工夫が必要。 ・PBL 授業について、成果のアウトプットを上手く考えていくと、学部の魅力に繋がる。
	【具体的な改善事例】 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学生主体のパンフレット委員に学部案内を作成して貰う。新生ガイダンス等で学生の活動を報告して貰う。 ・コース内容等を表に出すなど展開を検討。 ・社会人学び直し事業は継続予定。
医学部 医学科	【意見・指摘事項等】 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習において、重要診療科での十分な実習週数を確保すべき ・学生評価基準が明確でなく、学習成果の達成を評価するシステムを構築すべき ・カリキュラム関連委員会で教育プロセスと学習成果を定期的にモニタリングし、評価結果をカリキュラムに反映させるシステムを構築すべき等
	【具体的な改善事例】 <p>それぞれの指摘事項について、医学科教務部会、関連委員会で改善に向け検討していく。</p>
医学系研究科	【意見・指摘事項等】

	<p><地域オープンイノベーション R&D 人材養成事業事業評価委員会> e-ラーニングの方向性が一方向的である。</p> <p><重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム外部評価委員会> 特になし。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>e-ラーニングの双方向性を図るための工夫としては、複数のチャプターに分け学生の理解を図るためのミニテストを実施しているが、電子掲示板で質問を受け、対面によるフォローも検討する。</p>

6. その他 特記事項

学部等	特記事項
大学教育・学生支援機構	特になし
教育学部 教育学研究科	特になし
社会情報学部 社会情報学研究科	特になし
医学部 医学科	特になし
医学部 保健学科	特になし
医学系研究科	本研究科ではとくに学生との懇談会・意見調査などを行っていないが、上記 FD や「大学院生によるワークショップ」の後に、学生と教員、外部評価者、招待講演者などとの意見交換会を開催しており、その機会を利用して学生からの意見を聴取し、それを教育方法改善に役立てるよう努めている。
保健学研究科	特になし
理工学部 理工学府	特になし

7. 根拠資料

学部等	根拠資料
大学教育・学生支援機構	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度前期授業評価アンケート集計表 ・平成 29 年度後期授業評価アンケート集計表 ・学長と学生との懇談会次第 ・群馬大学ベストティーチャー賞公開模擬授業及び授与式開催案内 ・第 9 回全学 FD 講演会「大学教育のグランドデザイン」開催案内
教育学部 教育学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業評価集計結果 2. 授業評価アンケートWEB画面 3. 授業改善報告書 4. 平成 29 年度教育学部長と学生との懇談会要望事項一覧 5. 平成 29 年度修士課程院生との懇談会要望事項一覧 6. 特設の授業公開概要 7. 平成 29 年度 特設の授業公開科目一覧 8. 平成 29 年度「教育実習AおよびB」に関するアンケート集計結果
社会情報学部 社会情報学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・学部授業評価アンケート集計結果 ・大学院授業評価アンケート集計結果 ・学部長との懇談会案内，懇談会記録 ・研究科長との懇談会案内，懇談会記録 ・ガイダンス一覧 ・学部卒業時アンケート，集計結果 ・研究科修了時アンケート，集計結果
医学部 医学科	<ul style="list-style-type: none"> ・医学科学友会との懇談会質疑応答内容 ・カリキュラム検討ワークショップ ・医学教育教授法ワークショップ次第 ・医学科卒業時アンケート質問紙 ・医学教育分野別評価実地調査スケジュール
医学部 保健学科	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度保健学科前期授業評価アンケート結果 ・平成 29 年度保健学科後期授業評価アンケート集計結果 ・平成 29 年度第 1 回保健学科学友会との懇談会質疑応答内容 ・平成 29 年度第 2 回保健学科学友会との懇談会質疑応答内容 ・保健学教育ワークショップ次第等
医学系研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケート集計結果 ・医学系研究科 FD 次第
保健学研究科	特になし
理工学部 理工学府	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業改善のためのアンケートフォーム 2. 学生との懇談会報告書 3-1. 公開授業に関するアンケートフォーム 3-2. 群馬大学大学院理工学府 FD 講演会次第 3-3. ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業次第 4. H29 卒業・修了時アンケート（理工学府・理工学部）結果

平成29年度 授業評価実施状況一覧

		合 計		内 訳			
				前 期		後 期	
		実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数
教養教育科目	学びのリテラシー	78	1,794	25	985	53	809
	小 計	78	1,794	25	985	53	809
専門教育科目	教育学部	539	6,136	295	3,804	244	2,332
	社会情報学部	200	2,473	75	1,470	125	1,003
	医学部医学科	53	1,860	33	1,188	20	672
	医学部保健学科	270	3,642	147	2,161	123	1,481
	理工学部	353	18,384	144	8,531	209	9,853
	小 計	1,415	32,495	694	17,154	721	15,341
大 学 院	教育学研究科	89	363	38	220	51	143
	社会情報学研究科(※1)	—	12	—	—	—	—
	医学系研究科	15	112	15	112	—	—
	保健学研究科	3	37	3	37	—	—
	理工学府	108	1,793	52	1,172	56	621
	小 計	215	2,317	108	1,541	107	764
合 計		1,708 (1,613)	36,606 (32,516)	827 (790)	19,680 (18,387)	881 (789)	16,914 (14,116)

※1 社会情報学研究科は、科目ごとではなく、研究科の授業全体を対象として実施。

※2 () 書きは、昨年度の実績。